

●事務局体制

・東京事務所
伊藤多栄子、岩本宗孝、佐谷隆一、ゾリグト・アズザヤ、能智和美、野村政道、眞榮城好香、吉岡健治、渡辺悠斗

・プノンペン事務所
高林幸祐、辰川はる奈、矢加部咲、バン・ラス、メーン・サコーン、ティム・パリー、マオ・カナリン、ノウ・チャンタ、スレン・キムベン、ホン・ソダツ、ヒム・サヴィー

●今後のイベント

【12/15(水)～19(日)】
『ティーンズクリエイション展2021 Wakamono Arts Festival』にて、CCHの子ども達の絵画展
【2022年 7/30(土)】天満敦子チャリティーコンサート

※上記以外のイベントを開催する際は、ホームページやメルマガでお知らせします。

／編集後記／

今回のJHPニュースでは、コロナ禍で新たな進化を重ねる現地事業の様子や、実際にJHPのプロジェクトに携わっているスタッフや職員・生徒たちの生の声を中心にお届けしました。現地でインタビューを通じて、「地道な活動の積み重ねが、やがて、より良い社会への大きな変化に繋がる」と信じる気持ち、国を越えた共通の想いだと思いが伝わります。

本誌を通じて、そんな想いが繋がり、「できることから始めよう!」の輪を広げていけることを願っています。(編集事務局)

Cambodian Baby Doll 限定販売中



JHPが運営サポートを行っているCCH*のカンボジアの子どもたちが、1つ1つ手作りで作した人形たちが、日本へ届きました!

- ◇1つ 600円(送料別)
- ◇カンボジア伝統の布「クロマー」を使用しています。
- ◇1つ1つが子どもたちの手作りであるため、表情や色合いもオリジナルです。

*CCH (Center for Children's Happiness) = 幸せの子どもの家

※CCHの子どもたちによる人形は手作りでもあって、販売個数に限りがございます。また、収益はJHPの活動に役立てられます。



JHPホームページよりご購入いただけます▲

♪マーチングバンドの楽器ご提供のお願い♪

カンボジアの中・高校生マーチングバンドのための楽器を集めています。
バスドラムとそのスティック、チューバ★
スネアドラム、木琴、
トランペット、フルート、トロンボーン、
3連マーチングドラムとそのスティック
(★印が特に必要です)

詳しくは東京事務所までお問合せください。

会費支払

当会の活動は皆様からの会費・寄付で成り立っています。
JHPニュースと活動記録集は会員の皆様にお送りしています。

・年会費：一般会員5千円、学生会員3千円、特別会員5万円

・上記それぞれ「正会員」「賛助会員」が選択いただけます

◆「正会員」：定例総会や臨時総会の出席資格、議決権を持てます
会費は控除の対象にはなりません

◆「賛助会員」：定例総会や臨時総会に出席できますが、議決権を持てません
会費は寄付と同様に税法上所得控除の対象となります

口座名：特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会
郵便口座：00110-4-356264
銀行口座：みずほ銀行赤坂支店 普通 1844676

※会費期限切れの方は更新手続きをお願いいたします。

※期限前の支払いも可能です。

※郵便口座からの自動引落も可能です。ご希望の方はご連絡下さい。

※銀行振込ご利用の際は、連絡先確認のためご連絡をお願いします。

※転居された際は新住所をお知らせ下さい。

JHPのホームページから、
クレジットカード(VISA/MASTER)で、
会費・寄付金のお支払いができます!

URLはこちら

<http://www.jhp.or.jp/join/>



◆郵送費削減にご協力頂ける方には、Eメールにて会報を配信いたしますので、下記連絡先までメールアドレスをお知らせください。連絡先: tokyo-office@jhp.or.jp

「JHPニュース Vol.79」(2021年12月号)

発行元：認定NPO法人 JHP・学校をつくる会

発行人：小山西美江子

編集人：眞榮城好香

〒108-0014 東京都港区芝5-14-2

鈴木ビル2階

TEL: 03-6435-0812

With コロナ時代の現地活動

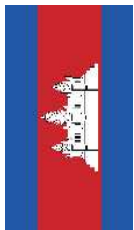
JHPの活動地カンボジア・ネパールでは、新型コロナウイルスによる影響を受けながらも、オンラインツールを活用するなどの工夫をしながら、現在、新たな形で現地事業を進めています。

今回のJHPニュースでは、withコロナ時代に新たな進化を重ねる現地事業の様子や、現地事業に携わるスタッフや教員、生徒たちの生の声をお届けします。



認定NPO法人

JHP・学校をつくる会
JAPAN TEAM OF YOUNG HUMAN POWER



カンボジア 活動報告



再開された学校の教室で学ぶ子どもたち

学校
建設

待ちに待った学校の再開

新型コロナウイルスの感染拡大により、カンボジアでは、2021年3月16日より、全州の教育機関が閉校していましたが、8月下旬に教育・青少年・スポーツ省により発行された通達文を受け、新型コロナウイルスの感染リスクが低く、州・郡教育局から再開の許可を得た学校から順に、再開され始めました。

政府が定めた学校再開のための
主なルールは以下になります。

- 1クラスの人数は15〜20名に限定
- ソーシャルディスタンス（1.5m）の確保
- 学校敷地内で飲食物の販売の禁止
- 定期的な手洗いやアルコールによる手の消毒
- 登下校時含む、常時マスクの着用

まだ2回のワクチン接種を完了していない教員は、対面での授業は実施できず、オンライン授業のみ実施可能となっています。



入塾前にアルコール消毒をする様子



教室が密にならないよう、
民家で学んでいる生徒たち

10月1日より再開された学校の校長先生に
コロナ禍の学校再開についてインタビューをしました。

interview



バットバン州
ドーントリー小学校 校長
モエウン・ベスナ先生

『全生徒への2回のワクチン接種が完了し、州と郡教育局から許可を得て、1クラス15人以下に限定し、ソーシャルディスタンスを保ちながら授業を実施しています。』

1グループは1日2時間学校で、クメール語と算数のみ勉強します。他のグループの生徒達は、民家を間借りして密にならないように勉強をしています。学校を再開することができ、大変嬉しく思います。

しかし、貧しい家庭では定期的にマスクを購入することが難しく、約80%の生徒達はマスクをせずに登校しています。また、長期間にわたる学校の休校が引き金となり、例年より多くの高学年の生徒達が家計を助けるために働き始め、途中退学しました。

新型コロナウイルスの影響で子ども達の学習量は確実に減り、将来、進級テストにも深刻な影響を及ぼすでしょう。』

なお、10月下旬時点では、新型コロナウィルスが感染拡大している地域の学校において、州及び郡教育局の許可が下りず、再開されていない学校もありましたが、11月1日からは、全州の学校が再開しています。



ワクチン接種カード

識字
教育

成人のための識字教育

2018年からスタートした識字教育事業は今年で3年目を迎えました。今回は、識字クラス卒業生の2名に卒業後の様子をインタビューしました。

- 名前：サン・サーンさん（51歳）
- 職業：市場で野菜や魚の販売



Q1

識字クラス卒業後、読み書きの学習を続けていますか？

『はい、続けています。時間があるときは、農業に関する本を読んでいます。また収入と支出の記録も毎日つけています。』

Q2

識字クラス卒業後、収入に変化はありましたか？

『収入は少し上がりました。本から知識を得て、魚の養殖を始めたからです。また、正しくお釣りを渡すことができるようになり、領収書や物品リストも書くことができるようになりました。お客さんとの信頼関係も築け、収入は結果的に上がりました。』

Q3

その他、生活に変化はありましたか？

『手紙や通知文を他人の力を借りずに読むことができるようになりました。』

また、以前は質問されたことに対してどのように答えたらいいのかわからないことがあったのですが、今は家族や友人との会話を楽しむことができるようになりました。』



本から知識を得て始めた、魚の養殖の様子

- 名前：コム・イエンさん（38歳）
- 職業：野菜、果物の販売、
建設現場での労働、稲作

Q1

識字クラス卒業後、学習を続けていますか？

『小学5年生と2年生の子ども達の宿題を毎日チェックし、読み、書き、計算の学習を一緒に続けています。』

Q2

識字クラス卒業後、収入に変化はありましたか？

『大きな変化はありません。しかし以前は、時給がいくらなのか計算ができなかったのですが、今は自分がどれだけの単価で働いているのか把握することができるようになりました。日々の収入と収支を計算するようになり、生活に必要な金額を把握することで、無駄にお金を使うことがなくなりました。』

Q3

生活に変化はありましたか？

『コミニティの集会の際には、今は自分の意見を皆の前で発信することができるようになりました。』

また、識字クラスに参加する前は、子ども達の教育は小学5、6年生までで十分だと感じていましたが、今は大学まで教育を受けさせたい、と思うようになりました。たくさん勉強して知識を得て、良い仕事に就いて欲しいと思います。そのために頑張ってお金を稼がなければなりません。』

★★★★★★★★★★★★★★★★

識字クラスを通して、一生失うことのない「知識」を得た卒業生達は、以前より自信に溢れているように感じ、グループの変化を与えられたことを大変嬉しく思います。
新型コロナウイルスの影響により中断していた第3期の識字クラスは、11月1日より再開しています。



識字クラス再開に向けたミーティングの様子

今回は、前回に引き続き、
アートクラブ・ファシリテーターの
インタビュー第3弾をお届けします。



CAP Facilitator
Phon Chanleakhena
ポン・チャンレアクケナ

3

どんな想いを持って、
活動を企画していますか？

『私は、CAPはこれまではなかった、新しいプロジェクトだ
と思っています。子どもたちが学ぶことで成長し、創造的かつ
自信を持つことができる芸術プロジェクトであることが、私が
この活動に参加するモチベーションになっています。』

私の目標の一つが、カンボジアの子どもたちが皆、自分の個性
を持ち、自信を持って自分の作品を表現できるよう、見届けること
です。子どもたちは大切な存在であり、社会をより良くして
いくためにも、彼らを支えるべきであると考えています。』



1

自己紹介をお願いします。
具体的にどんな仕事を担当して
いますか？

『私の名前は、PHON CHANLEAKHENA (ポン・チャンレアクケナ) と申しま
す。王立芸術大学を昨年卒業し、現在は演奏活動の傍ら音楽スタジオで働いて
います。私は2016年から、CCHアートプロジェクト(CAP)のアシリ
テーターとして活動しています。』

2

今まで取り組んできたことで、
一番嬉しかったこと、最も大変だったこと、
最もやりがいを感じたことは？

『私にとって一番嬉しかったことは、子どもたちがC
APの活動が始まると聞いた時に、本当に幸せそうな
笑顔を見せてくれたことです。子どもたちは、一度も活
動を欠席したいと思っただことありません。子どもた
ちは、皆とても気が利き、協力的です。』



最も大変だったことは、非常に恥ずかしがり屋で表現することや話すことが
苦手な子どもたちを、うまく手助けすることができなかったことです。私たちは
子どもたちに活動の意義を理解してもらい、活動のポイントを把握してもらわ
なければなりません。しかし、特に内気な子どもたちは、活動内容を理解してい
なくても、私たちアシリテーターに質問してくれないこともありました。

最もやりがいを感じた時は、外部や外国からCCHを訪問された方々と、一緒
に新しいワークショップをした時です。私もまだ子どもたちと一緒に経験を積
んでいると感じました。』

4

CAPを担当する中で、
印象に残っている思い出やエピソードは
何かありますか？

『毎年定期的に教室の壁紙を変えるため
に子どもたちと一緒に準備するのですが、
みんな本音に楽しく助け合しながら活動
できました。大変な作業でしたが、全く疲
れを感じませんでした。』

また、CAPフェスティバルでは、作品展
示を実施しました。子どもたちが大きく成
長している姿を見たことが印象に残ってし
ます。』



5

日本の支援者の方へ一言メッセージ

『最後に、カンボジアの子どもたちの
ご寄付は本当に、子どもたちやカンボ
ジアに住む人々を常に気にかけていただ
き、全ての関係機関に携わる日本の皆さまに心から感謝致します。皆さんの健康
と幸せをお祈りしております。本音にお
いかなければ幸いです。』

CCH ART PROJECT



CCHアートプロジェクトは、
ローラ・ワールド・スカラシップ基金の支援により2015年から実施しています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、活動を自粛していたCCH
アートプロジェクト(CAP)ですが、感染予防対策を実施した上で、
7月にアートクラブを再開することができました。

現時点では、ミーティングはオンライン
で実施。活動もJHPの職員や外部のファ
シリテーターはオンラインで参加していま
す。オンラインでの実施は難しい点も多い
のですが、映像や音源や参考資料などを事
前に用意し共有するなど、少しでも子ども
たちが活動に集中できるようにファシリテ
ーターたちは工夫をしています。

今回は、その中から一部をご紹介します。
*オンラインでの活動時や写真撮影時にマスクを外
している写真があります。



／みんなはどんなゴーストに出会ったことがある？／

ゴーストコレクション

実際の体験(?)や夢や絵本で出会った
ゴーストなどが集う
愉快的ゴーストコレクションが完成しました。



／紙コップに切り込みを入れたら・・・／

紙コップマペットで
ショータイム

動きに合わせて目や鼻をつけたら
素敵な人形が完成しました。
グループになって人形を使った物語を披露しました。



今後も、コロナ禍において何かと不自由な生活を強いら
れる子どもたちが、表現活動を通して、少しでも心を開放
できるような場を提供していきだらと願っています。

／画用紙を好きなように使ってみよう！／

私の素敵な帽子

丸めたり、折ったり、つなげたり、切ったり
しながら自分だけの帽子が完成しました。



Ｊ－ＣＡ草の根技術協力事業

カンボジアの子どもたちに 音楽と美術の楽しさを

初等科芸術教育支援事業

2021年5月以降の活動報告

前回のＪＨＰニュースでは、2020年11月から2021年4月までの活動をお伝えしました。

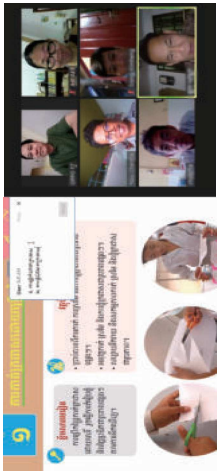
新型コロナウイルスの影響による規制措置や学校の暫定閉鎖などが続く中、初等科芸術教育支援事業では、オンラインツールを中心に活用しながら芸術教科の生徒用教科書・教員用指導書（以下、教科書・指導書）の作成、日本人専門家による確認、校正、日本語・クメール語などへの翻訳作業、高学年の授業実践、報告会や勉強会などを行ってきました。

2021年5月から2021年10月までに行われた、主な活動内容は次の通りです。

1. オンライン会議

カンボジア教育省と構成している芸術教科のワーキンググループ（WG）や日本人専門家とのオンライン会議を実施し、教科書・指導書の作成及び修正を行いました。

- ◆実施日：
毎週木曜と金曜日（WG）
6月6日（日本人専門家）
- ◆参加者：
教育省の関係3局の
担当行政官、日本人専門家など



2. オンライン授業実践

- ◆実施回数：11回（ビデオ授業含む）
- コロナ禍で公立小学校の閉校が続いているため、教科書・指導書作成にあたり、対面で行ってきた授業実践ができない状況が続いています。

そのため、今回は、児童養護施設（CCH）の子どもたちに協力してもらい、授業ビデオの作成やオンライン授業などの代替方法へ切り替えて進めました。



オンラインでの授業実践の様子

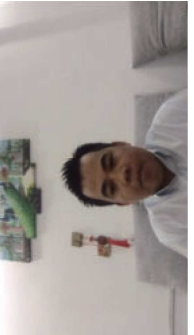
3. オンライン勉強会

- ◆実施日：7月2日
- カンボジア国内で幼児教育事業を実施する他の日系NGOとの相互学習を目的として実施された現地スタッフによる事業発表や体験授業を取り入れたオンライン勉強会に参加しました。

4. オンライン報告会

事業の進捗についての報告会をカンボジア教育省と共に、ズームにて行いました。

- ◆実施日：8月25日
- ◆参加者：教育総局の副局長、
関係3局の上長や教員養成大学の
芸術科教員などの総勢18名



教育総局の副局長Mok Sarom氏の挨拶の様子

国際シンポジウム出演



「カンボジア・日本 国際シンポジウム
～両国児童S-HTP描画調査比較～」

- ◆開催日時：9月18日（土）ZOOM開催
- ◆登壇者：当会フロンティア事務所・所長 矢加部咲
カンボジア教育省職員2名
- ◆参加者：約70名

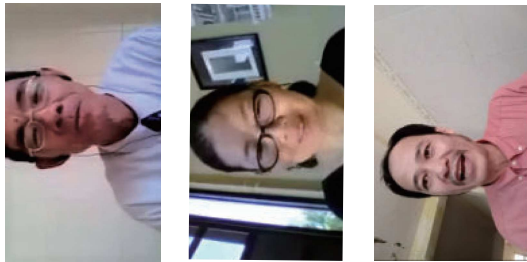
聖隷クリストファー大学鈴木光男氏主催のもとカンボジア・日本両国の子どもたちの美術教育に関する研究発表*を兼ねた国際シンポジウムが開催されました。

*研究内容の概要

カンボジアにおける「HTP支援校」と一般の非支援校の比較を中心に、その他シエムリアップのスクーラー・スクール関係校、日本の公立校計8校で調査を実施し、描画学習経験の有無や程度の差、表現力や想像力などの資質・能力にどのような違いが見られるかの比較調査。

当会も長年の美術教育支援活動の経験から、調査の協力をして参りました。

これに伴い、当会のカンボジアでの芸術教育支援について、活動紹介と活動報告を行いました。



登壇したカンボジア教育省職員2名
フロンティア事務所・所長3名

／カンボジア教育省・職員インタビュー／
第3弾をお届けします！



初等科教員局 実践活動課 副局長
Nai Sacha
ナイ・サッチャ



01 JHPの芸術教育事業にどのように携わってきましたか？

主に、以下のような芸術教育事業の活動に携わってきました。

- ・社会科から独立することになった「芸術教科」の目標を明確にし、カリキュラムを策定するためのJHPと教育省職員で構成される芸術教科ワーキンググループへの参加。
- ・美術、手工芸、音楽に精通した日本の専門家を招いた、JHPのワークショップへの参加。
- ・芸術教科の生徒用教科書、教員用指導書の作成・編集への取り組み。

02 今まで取り組んできたことで、一番嬉しかったこと、最も大変だったこと、最もやりがいを感じたことを、それぞれ教えてください。



◇一番嬉しかったこと：

『美術、手工芸、音楽に精通した日本人専門家によるワークショップや、本邦研修に参加できたことは、私たちにとても素晴らしい経験でした。また、いくつかの地域の対象校を訪問し、美術、手工芸、音楽の授業の実践過程を見学したこともです。授業実践の活動の際に、子どもたちは内に秘める才能を発揮し、話す代わりに作品を見せることで、それぞれの情熱や喜びを表現していました。』

◇最も大変だったこと：

『カンボジアの子どもたちにとって、教科書などの教育用教材と教室などの教育用スペースが不十分であることです。』

◇最もやりがいを感じたこと：

『新しい様々な経験を得たことです。具体的には、日本の教科書の作成方法を参考にしながら、カンボジアの芸術教育省のカリキュラムに基づいて、芸術教科の教科書の作成を私たち自身が身をもって体験したことです。』

03 この事業で一番重要だと感じingことは何ですか？

『世界各国には、国のアイデンティティを示すための自国の芸術文化があり、21世紀の新しい時代背景においても、人間の一生を通して、その生活の中に芸術に関わる様々な事柄が生じていることが分かります。また、それぞれの国が独自の芸術文化を持つ一方で、私たちは皆、人間の成長のための共通のビジョンを持っています。だからこそ、私たちも芸術教科を策定し、実施しようとしているのです。』

まずは、この新しい教科書の作成を通して、教師と生徒たちの両方が、芸術に関する幅広い知識の土台を得られるものになることが一番重要だと感じています。』

04 この事業を通して、子ども達は何を得ることができると感じますか？

『この事業の達成後、カンボジアの子どもたちは、新しい教科書を通して、美術、手工芸、音楽、踊りの科目など、様々な分野の芸術を学んでいきます。それを通して、子どもたちは、作品や自分の視点や自分自身を表現したり、自分なりの解釈、解決策を採ることに向き合う機会を得ることになります。』

また、この芸術教科では、表現することが苦手な子どもたちも、授業を通して、勇気を持って活発に協力しながら活動できるものに働きかけています。』

05 読者へ一言メッセージ

『一般的に、聞く耳がなかったなら、良い結果ができません。事業を通して良い結果を残していくには、私たち自身が社会、そして特に子ども達のことを理解するための情報に耳を傾けることが大切です。何かを決める前に、しっかりと耳を傾けていくことで、次世代を導くための情報を分析したり、提供したりすることによって実現しています。』

ネパール学校建設



今秋完成したヒルスバディニ学校

ネパールは現在、新型コロナウイルスの第2波の終息期にあります。第2波は、南アジア全体で流行していったデルタ変異株によるものでした。都市封鎖と外出禁止令を繰り返したにもかかわらず、新型コロナウイルスの感染者数は78万7千名に達し、そのうち1万1千名以上の命が全国で奪われました。これまでのところ、全人口の19.5%（560万人）しか、一度のワクチン接種を受けておらず、第3波に対する懸念が高まっています。

その一方、新規感染者数は、ここ数週間減少し続けているので、政府は都市封鎖などを緩和し始めました。スーパーでの買い物、長距離輸送の許可イベントや大人数での集会制限の緩和、学校を含めた教育機関の再開などです。新規感染者数が減少し、公衆衛生上の制限が緩和され始めたので、一部の私立学校は、2021年9月中旬に対面授業を開始しましたが、

第3波が懸念される中、若者の安全を確保するために、公立学校は11月中旬から再開としました。

ネパールのジャバでの学校建設プロジェクトは2011年に開始され、これまでに、15棟の学校建設、机や椅子なども装備され、コンピュータに贈与されました。

2021年の秋に、新たに1棟の建設が完成し、1棟が建設を開始しました。さらに、もう1棟が来春建設を開始する計画になっています。

新型コロナウイルスは、ネパールでの学校建設計画を一時的に中断せよましたが、決して完全にストップしたわけではありません。今後も建設工事が順調に進むことを期待しております。

ネパールのコンピュータ、学校管理者、学生と教師は、日本の贈与者の皆様の寛大さと支援を高く評価し、この学校建設という素晴らしい仕事にご尽力いただいた方々に、心から敬意と感謝の念を抱いています。



古い校舎は取り壊し、今秋に新校舎の建設が始まります

天満敦子チャリティーコンサートVOL.16

今年も恒例となりました第16回天満敦子チャリティーコンサートが、8月14日(土)に浜離宮朝日ホールにおきまして開催されました。

当日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場スタッフや出演者、来場者のマスク着用や手指消毒等の感染予防策を十分に講じた中での開催となりました。コロナ禍ではありましたが、沢山の方が天満さんの意色を聴きに来場され、久しぶりの生演奏を楽しんでおられました。



曲目は、前半は主にヨーロッパの名曲中心で「タイスの瞑想曲」、「ロンドンデリーの歌」、そして「望郷のバラッド」で、比較的親しみ深い曲をいくつかとした演奏で聴かせていただきました。

休憩の前の天満さんのトークでは、コロナ禍の日々の話を交えながら、例にもつてユーモアたっぷりにお話しいただきました。

後半は「夏の思い出」、「浜辺の歌」、「からたちの花」などの日本の曲を中心としたプログラムで、ご来場の皆さまは、心から堪能された様子でした。



なお、次回、第17回のコンサートは、2022年7月30日(土) 浜離宮朝日ホールでの開催を予定しています。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

ご報告 収入合計	1,703,665円
支出合計	997,351円
収益(寄付金込み)	706,314円



チャリティーカレンダー2022

好評販売中☆☆



▲表紙サンプル



▲中面サンプル

カレンダーテーマでもある「笑顔」には、幸せや安心感を与えてくれる不思議なパワーがあると思っています。

長引くコロナ禍で、以前よりも人と人、世界との距離ができてしまった今だからこそ、「何気ない日常の笑顔」「人との繋がり」を大事にしたい。

そんな想いの詰まった、カンボジア・ネパールの子どもたちの笑顔が溢れるカレンダーとなっています。

自宅用・仕事用はもちろん、贈り物にもぴったりです。

手に取ってくださる皆さまに、笑顔が伝えますように。

壁掛け: 1冊 500円
卓上: 1冊 800円

送料

壁掛け 1~5冊: 90円 / 6~10冊: 180円
卓上 1~3冊: 90円 / 4~6冊: 180円



ご購入情報はこちらから！

チャリティーカレンダーの収益は、カンボジア・ネパールの子どもたちの教育支援のため、JHPの活動に役立てられます。



できることからはじめよう！

■取り組み期間:

2021年3月1日(月) ~
2022年3月31日(木)

* JHP・川崎労働協・フードバンクかながわの共同で実施しています

JHPでは、新型コロナウイルス深刻化による収入減で困窮が深まり、毎日の食事に困っている

「ひとり親世帯」を主な対象として、コロナ禍の食支援「お米1合運動キャンペーン」に参加しています。これまでに、個人の支援者の皆様を始め、企業様、社会貢献支援財団から、ご支援が届いています。

◇これまでに集まったご支援(3月~11月)◇

- ご支援いただいた金額: 722,540円
- お米のキロ数: 1,114kg
- ご支援者数: 延べ220名

ご支援いただいた皆さま、ありがとうございます。

これまでも送り頂いた寄付金やお米は、川崎労働協を通じて「フードバンクかながわ」から食支援が必要とされる方々へお届けしています。

『フードバンク』: 品質に問題ないものの、やむなく捨てられそう食品を企業や団体から無償で提供いただき、行政・社会福祉協議会・支援団体を通じて、食に困っている方へ届ける活動を行っています。

フードバンクへ寄せられた「ありがとうの缶」の一部をご紹介します。

『コロナの影響で、パートで働くシフトも減り、先行き不安な中、今回の支援を知りました。昨今は、母子家庭に対する風当たりも強く、助けを求めることが、はばかれてしまいましたが、助けてくださる方々がいるということが、とても心強かったです。』(ひとり親世帯)

『中学生の子どもに、おにぎりだけです、お昼ご飯を持たせてあげられるようになりました。それまで昼食時には、保健室に行ったり、トイレに行ったりとしていたそうです。子どもは、毎日嬉しそうに学校に行くようになりました。』(ひとり親世帯)

今後も、多くの皆様からのご支援・ご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



企業や団体から届いた食品を保管するフードバンクかながわの倉庫



フードバンクかながわの藤田さんのお話によると、主食のお米やおかずが特に需要が多いとのこと。